



百人一步通信

～「一人の百歩より百人の一步」の社会を作ろう～

【発行】今井和夫とともに歩む「百人一步の会」

【代表】今井和夫（宍粟市議会議員）

〒 671-3211 兵庫県宍粟市千種町岩野辺 1065

☎ 090-9610-2511

✉ tamago@imaifarm.jp

「雪のない冬は長い人生の中でも始めてだ～」千種町に住む高齢の方が言われます。大寒なのに雪じゃなく雨。異常すくめの日々が続きます。スキー場やその関連の仕事の方は死活問題です。何らかの対策が必要です。せめて今からでも山に雪が降ることを祈ります。(1月30日)

学校給食について (12月議会での一般質問より)

今回は、まず先の12月議会での私の一般質問のことを書きます。

全国的にも誇れる宍粟市の学校給食 もっとPRすれば～

宍粟市、課題もいっぱいありますが、素晴らしい取り組みもいっぱいあります。その一つが学校給食です。

●地産地消率75%

主食はほぼ100%地元産の低農薬米。野菜等も極力地元産。だから、安心安全。ここまで率の高いところはそうないです。

●冷凍・レトルト品は使わない

地元産を使うということは、加工品を使わないということでもあります。カレー・シチューは市販のルーは使わない。ハンバーグも素材から・・・とにかく全部手作りです。(冷凍品・加工品は輸入物が多いので、加工するときに栄養が抜けていたり、危険な添加物が多く入っていたりします。)

●味噌、豆腐、小麦粉も地元産

地元の大豆・小麦で作っています。安全です。(一般の輸入小麦や大豆には除草剤殺虫剤等、危険な物がいっぱいです。)

他にも誇れるところはたくさんあります。生産者・栄養教諭・調理員の皆様の多大なるご努力の賜です。

兵庫県下 公立小中学校 給食費一覧

2019年4月現在

	一食単価(円)		改定年	市の援助
	小学校	中学校		
神戸市	260	300	H29	なし
高砂市	260	290	H31	なし
洲本市	260	280	H29	なし
淡路市	260	280	H27	なし
明石市	258	308	H28	なし
加古川市	258	285	H31	地元ブランド米使用時の差額負担
たつの市	258	0	H29	H30から中学校給食費無料化
姫路市	255	285	H27	なし
南あわじ市	低253 高255	284	H26	地産地消推進費 112万円
西宮市	250	297	H27	なし
芦屋市	250	290	H28	なし
丹波篠山市	250	280	H21	米粉パン・特産品補助 440万円
川西市	250	—	H29	なし
赤穂市	247	282	H26	なし
丹波市	245	275	H26	なし
養父市	245	270	H21	第二子以降は半額
西脇市	低230 高243	275	H31	地産地消助成 180万円
伊丹市	242	292	H26	なし
加西市	240	270	H26	JA直売所と市場価格の差額を負担
小野市	240	260	H30	なし
尼崎市	240	—	H31	なし
三田市	238	275	H26	地産地消推進費 70万円
三木市	234	265	H27	地産地消推進費 40万円
宝塚市	230	270	H26	なし
豊岡市	227	258	H26	市内産減農薬米使用に 1,153万円
朝来市	220	240	H17	市内味噌購入補助 50～60万円
宍粟市	220	240	H19	地産地消推進費 1,212万円 第三子以降無料化(1,500万円)
加東市	210	240	H8	地産地消推進費 2,978万円
相生市	0	0	H23	約1億円の市の補助金

兵庫県HP等より

議員HP 議員ブログ つくりました

今回の記事ももう少し詳しく書いてます。よかったら見てください。



議員HP



議員ブログ



今井和夫
いまい かずお

今井和夫

検索

こんなにいいのだから、もっと内外にアピールすれば～ということで、早速、市はHPに給食の取組み紹介のページを作ってくれました。もっともっとPRしていきましょう。

県下トップクラスの安い給食費

地元産と手作りのおかげで、宍粟市の学校給食費は単価で、小学校220円、中学校240円と県下でトップクラスの安さです。

それはいいのですが、何せ平成19年以来値上げはありません。その間、消費税は上がり食材費も上がっています。3年前から市から一食当たり18円の補助が出ましたが、それでも安いには変わりありません。栄養教諭さんは「もう限界」と言われています。

市からの補助金は今、約2,700万円で、これも県内では破格です。(なおかつ市は、来年度は消費税が上がった分だけ補助を増やす計画だそうです。)

保護者から集める給食費は全額、食材費に使われます。不足分をどうするか？さらに税金を入れるか、あるいは、それは保護者負担増額でまかない、税金は調理員増員とか、食材の質の向上に使うか。皆さんの議論が必要だと思います。

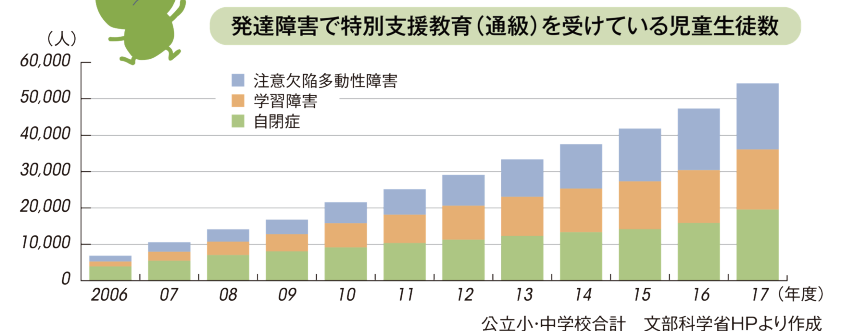
給食は子どもたちの大きな楽しみの一つであり成長の根幹。質の低下だけは避けなければなりません。

学校給食を有機食材に

宍粟市内の生産者は低農薬でいい食材を作っています。しかし、状況はもっと進みつつあります。

千葉県いすみ市では給食の米を全て無農薬有機米に替えました。愛媛県今治市でも給食食材の有機化を進めています。

韓国ではソウル市が来年度から給食を全て有機で無償にします。多くの地方都市でもすでに実施されています。アメリカやEUでも、学校給食の有機食材化は進んでいます。



世界保健機関（WHO）は「環境ホルモン、大気汚染、農薬などが子どもの健康や脳の発達に悪影響を及ぼす」と言ってます。他にも多くの指摘があります。

学校給食の有機食材化は世界の流れです。10年後にはおそらく日本でも1～2割の地域で実施されているでしょう。どうせするのなら一番にしようではないですか。まずはみんなの力で生産者を育てましょう～。



宍粟市HPより

雇用創生協議会問題に関連して一言

昨年11月から新聞・テレビで大きく報道された「宍粟市雇用創生協議会・委託金不正受給問題」。市内関係者は、問題がなかったとは言えないでしょうが、皆さん一生懸命頑張られていた。しかし、外部の者にうまく利用された。それは許せないところです。現在（1/30）は全容解明の第三者委員会の設立待ち、国からの委託金の返還金額の通知待ち、というところです。

いろいろ思いますが、一つ思うことは、**これも地方切り捨ての現れではないか**ということです。この広大な面積の宍粟市、それを南の端にある市役所が全部見れない。もし、市民局にもっと人員がいてちゃんと地域を見ることができていたら、**いや、町村合併せず旧町のままだったら、こんなことは起こっていなかったのではないか**。地方切り捨て、町村合併、人員削減の結果では。

やっぱり、本当は市民局の人員を復活させ、旧町単位でもう一度きちっとした自治を取り戻す必要があるのだと思います。

日本では公務員たたきがやりで「もっと削減しろ・民営化」とか言われますが、実は日本の公務員の数人口比率で英・仏の1/3、独・米の1/2くらい。**本当はしっかり働いてくれる公務員はもっともっと必要なのです**。

そもそも、この厚労省の「実践型地域雇用創造事業」、これ自体が地方切り捨ての最たるモノ。同省のHPには「雇用機会の不足してい

る地域において、地域の関係者の創意工夫や発想を活かした雇用創出の取組を支援する。コンテスト方式により選抜する。」とあり、一地域1年2億円×3年＝計6億円（上限）を支援するもの。H24年から8年間でのべ約150地域を指定。1年当たりざっと100億円余りの事業です。

こんな額で地方の雇用がよみがえるわけがない。まして、「コンテスト!!」なにそれ～!? 大多数の選ばれなかったところは切り捨て?? ただのアリバイ作りの事業じゃないですか? (しかも昨年から新制度に変わり一気に4,000万円×3年に減額!!)

約30年前、「地方の仕事は土建業」と言われたとき、**国は毎年10～15兆円くらいの公共事業費を出していました**。だから、地方は元気だったのです。それが今は5～6兆円、しかも多くは福島が都市圏の整備に。

国は「地方創生!!」と言いますが、実際にやってることはこの程度。これでは地方は干上がるのは当たり前。もっと根本的に、まず農林業に5～6兆円入れる。それで国土は守られ安全な食料自給も確立できる。(宍粟の農地と山も守られ雇用が生まれる。) 公共事業・商工業にもしっかり税金投入。それが本当の「地域雇用創造事業」「地方創生」じゃないですか。

そんな財源どこにある??? イヤイヤ、**税金は「ないところから取るな、あるところから取れ」**です。貯まるところには十二分に貯まっています。おカネが回ってないから、私たちの暮らしや地方は衰退するのです。商工業も農林業も。(このあたりはまた)

今回の件、不正に対しての厳正な対応が求められます。それと同時に、私たちの暮らしを行き詰まらせている本当の原因、それは地方に対してこんなちっぽけな雇用対策しか取らない、地方におカネが回ってこない今の国の政治、これが大きな一因だと思います。そこもしっかりとらえていく必要があると思います。地域を守ろうと正直に地道に頑張っている者が報われる社会を作りたいです。



来年「選挙」です。志のある方出よう!! 地域の皆さん、そんな人を出そう!!! 国を変えるのは地方から!!!!



投稿していただきました

～ 皆様からの投稿をお待ちしています ～

子どもが生まれてから「この子たちが生きる未来の宍粟のために、この土地のすばらしいところを残したい」と具体的に考え、行動するようになりました。東京から宍粟市に嫁いで8年。その間に発見した宍粟市のよいところの一番は「豊かな自然」と「人の温かさ」です。

「豊かな自然」娘たちは川で泳ぎ、桑の実や木いちごを食べ、蛙やヤモリ、さまざまな虫を観察し、鳥の鳴き声を聞き…。季節の移ろいを敏感に感じ、自然から多くの刺激を受け、感受性豊かに育っているようです。多感な幼児期を自然豊かな土地で過ごすことができ本当によかったです。

この豊かな自然を後世に残したい。以前、「廃油からEM石鹸をつくる」WSに参加しました。EMとは優良微生物群のこと。洗濯でも台所でも各種お掃除でも使える上に、使い続けるうちにEMの効能で家の下水の配管内も、川の水もきれいになるという。川を汚す一番の原因ともいわれる廃油が川を再生する存在に生まれ変わる。魔法みたいです。もっと多くの人にこの廃油EM石鹸が広まるといいなと思います。

一方、いま主流の「合成洗剤」。洗浄力は高いけれど、自然の環境下で分解しにくく、人体への被害や環境汚染などの害をもたらしていることを学びました。合成洗剤はシャンプーや歯磨き粉にも使われています。その害が世間でほとんど知られていないこ

とに驚きです。私たち一人ひとりの買い物選びが、この自然を、自分の健康を守るか壊すかを決めていると思い知りました。

「人の温かさ」まずは挨拶の習慣。見知らぬ同士が挨拶することは都会では皆無です。8年前最初に私に挨拶してくれた“他人”は登校中の中学生でした。彼が挨拶の心地よさを教えてくれました。挨拶をすればそこに笑顔が生まれ、会話が生まれる。町全体が気持ちのよい空気に包まれるようです。

小学校の集団登校では「見守り隊」の存在が心強い。皆さん、笑顔で「子どもは地域の宝物」とおっしゃいます。他にも、お祭りや運動会等、地域あげて子どもたちを見守り、育ててくれているなど日々感じ、感謝しています。

異学年が長い時間を一緒に過ごす集団登校では、年上はよい手本になり年下にとっての目標となっています。放課後や夏休みには異学年が一緒になって遊んでいます。これも都会ではなかなか見られない光景。人との関わりが希薄と言われる昨今、このように人と人が温かくつながっている町は貴重だと思います。

私が思い描く理想の未来は、様々な生物が共存する豊かな自然、働きがいがあり、人と人とが有機的につながる社会。農薬や除草剤で汚染された川や土、高額な税金や食糧難で子どもたちが苦しみませんように。よいところを守り、変革すべきは変革し、子どもたちが誇れる宍粟市を残したいです。(40代女性)